

サムライ精神

15

2007年度には「大学全入時代」を迎え、少子化によって大学経営はますます難しくなるといわれる。だが、これは逆に、真に優れた大学が伸びていくチャンスとも考えられる。そこで専修大学の魅力を、学長と世代の異なるOGの皆さんに語っていただいた。女性に「サムライ精神」というタイトルは面妖かもしれないが、彼女たちの話を聞けば、それ以外にふさわしい言葉はないと納得できるはずだ。

専修大学で
トップになる！

日高義博学長(以下、学長) 本日は世代の異なる皆さんに、専修大学の魅力や想い出などについてお聞きしたいと思いますが、まずは近況から教えてください。



学長、法学博士
日高 義博

次の8月、皆の就職先が決まり始めると、社会に出なければいけないのではないかと、急遽進路変更。しかし、企業についての勉強はゼロだったので、公務員しかない。しかも、この時期残っていたのは、刑務官と入国警備官試験だけ。結局、入国管理局を選びましたが、総代で卒業したことは今でも糧になっています。

り、願書の締め切りギリギリでようやく親が許してくれました。
学長 卓球は松崎さんの時代ほど華々しくありませんが、東都大学野球では2部で完全優勝して、1部に復帰。箱根駅伝の予選では2位と、他のスポーツでも楽しみが出てきましたよ。

夢を持ち続ける
ことが大切

江連 私は専修大学でいい友人と先生に恵まれました。大学4年次に大学

江連裕子(以下、江連) 「日経CNBC」の経済キャスターとしております。税理士志望で経済学部に入學したのですが、3年次に週刊誌で篠山紀信さんに写真を撮っていただき、それがきっかけになりました。現在は経済関係の番組を担当しているので、最初の志と近いかなと思います。
学長 田中さんは私のゼミの出身ですね。
田中津夜(以下、田中) 今は法務省法務総合研究所に法務教官として勤務しています。

学長 入学試験も最優秀でしたね。田中 実は準備不足から2校のみ受験し、第一志望には自信があったものの不合格。浪人するつもりでしたが、専修大学特待生の通知をいただき、学費等2年間免除というので、ならば入ろうと。入学後も頑張つて3年も4年も学費免除。卒業式も総代でした。学長も総代で卒業されましたよね。
学長 私が弟子を取らなかったから、法務省に行ったのかな(笑)。
田中 いいえ。入学時から大学院に進学しようと思っていました。4年



松崎(現:栗本) キミ代さん 卓球選手として、全日本学生選手権を3連覇。世界選手権でもシングルスで2度にわたって優勝。いわば福原愛ちゃんの大先輩。1961年商経学部卒業後、日興証券に就職。現在は卓球講習会や講演などで活躍中。



田中 津夜さん 法務省法務総合研究所法務教官。1984年法学部卒業。入国警備官採用試験に合格し、東京入国管理局横浜支局に採用。東京入国管理局などを経て現職。

ります。10号館が完成すれば、エレベーターで上げられるようになりますから。
専修精神
ここにあり

院聴講制度がスタートしたので、その面接で「自分はアナウンサーになりたい。そのためには何か得意分野を」と話しました。「それなら経済政策を私のところで研究してはどうか」と応じてくださったのが鶴田俊正教授(現名誉教授)で、主に独占禁止法を研究しました。それから7年後、公正取引委員会の竹島一彦委員長にインタビューする機会があったのですが、その時の研究が活かされました。感謝の気持ちを伝えたくて、手紙とその時のビデオを先生にお送りしたら、「夢を持ち続けること」の素晴らしさが綴られた素敵なメールをいただきました。
田中 私も日高先生との出会いが大きいですね。結婚式では主賓もお願いしました。また、今年、法務教官になった時、最も喜んでくださったのも日高先生でした。

卒業しても、あらゆる面で分かっていただける先生にめぐり会えたことが何よりの宝です。それにゼミの先生が今では学長ですから(笑)。
江連 ただ、生田の坂だけは大変でしたね。
学長 いや、その苦勞はすぐになくな

田中 皆さんにお見せしたものがありません。卒業時に私は、スポーツや勉強で頑張った学生に授与される川島記念賞という賞をいただきました。これはその副賞でいただいた国語辞典です。20数年間使い続けていますが、扉には当時の小田切美文学長の筆による「専修精神を忘れずに」とあり、辞書を手に取るたび、この言葉が目に留まります。また、専修大学では卒業式で、10年前の卒業生がスピーチする慣例があり、平成5年度の卒業式では私がその機会をいただきました。当日、会場の日本武道館で私は、「鶏口となることも牛後となるなかれ」という趣旨のことをお話ししたのですが、常に日高先生もおっしゃっているように、大事なことは「この大学に入ったかではなく、誰にめぐり会い、いかに学んだか」であり、専修精神とは、そんな気概を持ち続けることだと思います。それは、社会人になっても必ず各自の生活に活かされ、また、支えになるものと思います。
松崎 私もお見せしたいものが……。これは城山三郎さんの本ですけれど、初めて訪中さ



江連 裕子さん テレビ・キャスター。経済学部卒業。2003年に専修大学大学院経済学研究科修士課程を修了。『日経CNBC Express』を担当して3年目。



「あなたは負けたが一番です。勝っている時も負けている時もほほ笑みを絶やさない。そして、勝った時もおごらず負けてもくじけな。この風格を中国のスポーツマンは学ばなければいけない」そんなお褒めをいただいたのは、専修大学で鍛えられたおかげなのです。謙虚であれ、礼節を守れと入学時から厳しく指導されました。最近では勝てばいいという風潮もありますが、マナーが悪ければ、スポーツ選手としての魅力は半減してしまいますよね。
学長 サムライが創立した

大学ですから、礼節なくして専修大学の卒業生ではないですね。127年の歴史がありますから、卒業生それぞれに想いもあるでしょうが、やはり根底に流れているのは創立者たちの想いを背負って頑張ること。この想いとは、社会の骨格を支える人材となり、どんな場所にあっても自分のためだけでなく、人のため社会のために尽くすこと。私立大学がこれから勝ち残っていくのは大変ですが、大学としての原点に立ち帰って、社会の動きに敏感に、しかし流されることのないように、骨太のサムライ精神で現実を直視しながら、次の世代の踏み台になるつもりです。
皆さん、ありがとうございました。